
東北大学陸上競技部

OB・OG 通信

2023 年 VOL.4 (2023.10)

- ・ 第 45 回北日本学生陸上競技対校選手権大会(8/10~12)
 - ・・・男子 400mH にて阿部竜胆(2)が 52.42 の部歴代 3 位の好記録で予選通過、決勝では 2 位
 - ・ 天皇賜盃第 92 回日本学生陸上競技対校選手権大会(9/14~17)
 - ・・・女子 800m にて菅田理乃(3)が 2:10.47 で自身の持つ部記録を更新し準決勝進出
 - ・ 第36回国公立27大学対校陸上競技大会(9/22~24)
 - ・・・男子800mにて千葉琢巳(5)が1:53.76の部歴代6位の好記録
 - ・ 秩父宮賜盃第 55 回全日本大学駅伝対校選手権記念大会東北地区代表選考会兼第 40 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区代表選考会(9/24)
-

- 第 45 回北日本学生陸上競技対校選手権大会 2~7 ページ
 - 天皇賜盃第 92 回日本学生陸上競技対校選手権大会 8 ページ
 - 第 36 回国公立 27 大学対校陸上競技大会 9~12 ページ
 - 秩父宮賜盃第 55 回全日本大学駅伝対校選手権記念大会東北地区代表選考会
兼第 40 回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区代表選考会
13~15 ページ
 - 自己ベスト更新者 16 ページ
 - 今後の予定 16 ページ
 - 編集後記 16 ページ
-

清秋の候、会員の皆様にはますますのご発展のほどお喜び申し上げます。

今号では、第45回北日本学生陸上競技対校選手権大会、天皇賜盃第92回日本学生陸上競技対校選手権大会、秩父宮賜盃第55回全日本大学駅伝対校選手権記念大会東北地区代表選考会兼第41回全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区代表選考会、第36回国公立27大学対校陸上競技大会の結果を中心に、各大会における選手の活躍をお伝えします。

◎第45回北日本学生陸上競技対校選手権大会(8/10~12)

～弘進ゴムアスリートパーク仙台～

8/10~12の3日間にわたり弘進ゴムアスリートパーク仙台にて第45回北日本学生陸上競技対校選手権大会が開催されました。出場選手は少なかったものの、選手一人ひとりが日ごろの練習の成果を十分に発揮し非常に収穫のある大会となりました。以下、出場者の観戦記となっております。

●選手報告

☆トラック

男子 100m 予選

1組3着 上村尠之(M2) 11.04(-0.2)

スタートの反応は良かったものの、二次加速区間でうまく加速できず、トップスピードが小さいまま中間疾走区間へ。そのまま3着でフィニッシュ。

2組4着 藤井大陸(M1) 11.84(-3.3)

スタートの飛び出しはうまく行ったが、数字以上の向かい風を感じ満身に加速できず。隣の日本選手権ファイナリストとの差がどんどん開き、中学生時代のタイムでフィニッシュ。

3組4着 佐藤千仁(M1) 11.45(-2.6)

マイルリレーの前日刺激として臨んだが、あまりマイルリレーのパフォーマンス向上に繋がれなかったうえに、100m自体も予選落ちとなり反省している。アップの段階で臀筋の緊張を除くことができなかったこと、股関節周りの柔軟性を高められなかったことが主な原因で、スピードに乗ることができなかった。本レース自体のプランや意識したことはないためその点は評価しない。

女子 100m 予選

4組6着 菊地志乃(2) 13.68 (-1.4)

スタートで出遅れ、他選手に追いつけないまま、そのまま6着でゴール。

男子 200m 予選

8組8着 吉田陸人(M1) 24.49(-0.9)

カーブ頂点時点で内側の選手に抜かされ、直線に入ってもさらに差を広げられゴール。

DNS 西尾陸大(3)

DNS 上村尠之(M2)

男子 400m 予選

2組3着 菅野涼太(2) 50.57

自分のペースを刻む意識で後半の切り替えに備えた。向かい風でタイムは伸びなかったが着順で準決勝に進んだ。

7組2着 千田勤(D3) 50.44

格上の選手が2人棄権したため、着順通過を狙って臨んだ。スタートして200mの地点で他の選手を全員捉え、そこからはテンポ走を意識して走り、予定通りの着順通過となる2着でゴールした。

DNS 片桐大智(M2)

男子 400m 準決勝

1組 7着 千田勤(D3) 50.22

直近の調子が良かったため、周りの速い選手の力を借りて、記録を狙ったレースにする予定であった。それとは裏腹に、緊張か、軽い熱中症のため、序盤から力が入らずダラダラとレースを進めてしまった。得意な後半も上げきれず、7着でゴールした。予選よりも出力を上げたつもりであったが、タイムはほとんど変わらなかった。今回の結果を練習にフィードバックし、今後に繋げていきたい。

2組 6着 菅野涼太(2) 50.46

前半スピードに乗れず後半巻き返しを図ったが向かい風の煽りを受けてタイムが伸びなかった。

女子 400m 予選

2組 3着 加賀谷美結(2) 1:02.04

前半を前の選手の様子を見ながら徐々に加速していく。後半の200mで粘りのある走りで前の選手との距離を縮め、ラストの直線で1人を追い抜き3着でゴール。

3組 6着 喜多和奏(1) 1:04.93

周りのレベルが高く、終始前についていくレースになった。大学で陸上を再開してからは400mで足が上がらずに後半出し切れない走りが続いているため、LS向きの筋力が付いていない感覚がある。

男子 800m 予選

6組 3着 錦戸昴雅(1) 1:58.07

最初の一週は予定通り57"フラットで通過。そこから200もとても体が動いて700まではPBペースだった。最後の100で完全に足が止まりそのまま3着でゴール。

7組 2着 渡邊優典(1) 1:55.57

七大戦の反省も活かしながらレースを展開しましたが、またしてもあと一步のところまで決勝進出を逃してしまいました。ただ、確実に成長は

しているので、来シーズンに期待しててください。

DNS 千葉琢巳(5)

女子 800m 予選

1組 3着 喜多和奏(1) 2:27.29

最初に飛び出す勇気がなく、先頭のペースより遅れてしまった。後半上げられたからよかったものの、出し切れず逆ラップになってしまった。

2組 6着 木村瑞葉(3) 2:37.45

スタートから単独走になり、そのままゴールした。

男子 1500m 予選

1組 4着 日引英舜(1) 4:09.55

スタートはスムーズに集団の前方についた。スローペースで、ラスト勝負に少し反応が遅れてしまい、巻き返せないまま、組4着で終わった。

2組 7着 相澤啓太(4) 4:14.13

圧倒的な走力がある札学の金選手が前にでなかったので、スローペースになった。残り2周からペースが上がり、対応したが、更なるペースアップに対応できなかった。

4組 3着 渡邊優典(1) 4:11.57

上手くレースをつくることができず、周りにいように使われてしまった。タイムも納得のいくものではなかったため、リベンジを目指す。

女子 1500m 決勝

8位 菅田理乃(3) 4:48.10

スタート後位置取りに成功する。先頭集団につられてハイペースで400mを通過する。その後ペースは落ちてしまったが最後までPB目指して諦めずに走った。8着でゴール。

13位 塩見薫(1) 5:19.60

観戦記 レース開始直後から最後尾の集団で走った。ラスト100m手前からスパートをかけて13位でゴールした。

15位 木村瑞葉(3) 5:22.97

700m 通過あたりまでは数人でレースを展開するもその後離されそのままゴールした。

男子 5000m 決勝**20位 菅原大地(2) 18:23.01**

前日に 3000mSC を走ったことで刺激が入ったのか、自分の予想よりは体が動いた。しかし、暑さにやられて練習が積めていなかったため、記録として満足いくものにはならなかった。今回の大会は当時に行われている長距離合宿の代わりとして走ったが、2 レースとも納得いく形にはならなかった。

DNS 野地健太郎(3)**男子 10000m 決勝****9位 矢嶋由弦(4) 36:06.28**

朝一番の種目ではあったものの既に気温は 30°C を超え、雲一つない超快晴かつ強風という過酷なコンディションのレースとなった。出だしはスローな展開となり、1200m 付近までは集団に着いていたものの、その後は徐々に上がっていくペースに全く反応できず、入賞ラインにちょうど 1 周差をつけられてフィニッシュした。4000m を過ぎてからは頭がぼーっとするような感覚があり、3 周に 1 回ほどバックストレートの給水を取りました。暑熱対策不足も今回の結果につながったと思うが、根本的には当日の自身の力量が想定以上になかったことが全てであると大会後の練習を通じての感想である。三秀会の皆様のご支援で出場させていただいた中自己ワーストのタイムを出してしまい悔しく、申し訳ない気持ちであるが、気温が下がってからまた良い走りができるよう大学最後の夏を辛抱強く走り込んでいきたいと思う。このような機会をいただきましてありがとうございます。

DNF 野地健太郎(3)**男子 110mH 予選****3組 4着 西里碧澄 15.48(-1.2)**

スタートの反応は良かったが、ほとんど調整なしで試合に臨んだため、感覚が曖昧なままハードリングをしてしまい、ハードルにあてる回数が多かった。失速も多く、向かい風での試合となったため、タイムも悪くあまり良い結果ではなかった。0.08 差で決勝を逃した。

男子 400mH 予選**4組 3着 二ノ神遼(6) 55.77**

前半は外レーンの選手に大きく離されるが自分のペースで走り、8 台目あたりまであまりスピードを落とすことなくレースを進める。3 着取りということもありラスト 100m は流して周りを見ながらフィニッシュ。着順で準決勝に進出。

5組 1着 阿部竜胆(2) 54.42

前半溜める、後半ギアチェンを意識。8 台目から流して PB と 0.3 秒違いだったので調子がいいことを確信。

DNS 池谷駿(3)**男子 400mH 準決勝****1組 2着 阿部竜胆(2) 52.42**

予選と同じレースプラン。8 台目のカーブ抜けでかなりスピードに乗っていたのでそのまま押し切った。53 秒飛び越えての PB 大幅更新。1 着だと思って雄叫びあげたら 2 着だった。大学来て 2 番目に恥ずかしい。

2組 3着 二ノ神遼(6) 53.46

予選よりも前半でスピードに乗り、8 台目までは 2 番手争い。歩数を増やす 9,10 台目で離されるもラスト 40m で粘り、3 着でフィニッシュ。自己ベストを更新し、タイムで拾われて決勝に進出。

男子 400mH 決勝**2位 阿部竜胆(2) 52.88**

前半遅れていたのは分かっていたが後半上げられると確信していたので冷静にレースを進める。10 台目を終えてからようやく上位集団を捉えてなんとか 2 着。日をまたいで 2 本連続で 52

秒を揃えられたのはかなり自信になった。来年は加地さんの部記録、全カレA標準を狙う。

7位 二ノ神遼(6) 54.34

前半は準決勝のようなキレがなく、余裕のない走りになってしまう。200m 過ぎからギアチェンジしてなんとかレースに混ざるも、予定より1台前の8台目で歩数が増えてしまい、ラストの直線で一気に離され7着でフィニッシュ。

女子 400mH 予選

1組4着 加賀谷美結(2) 1:08.06

アプローチの試走で入りがうまくいかず跳ぶことができず、気持ちが動揺した。レースではスタートを恐る恐る入ってしまったため、その後2台の足がうまく合わなかった。中間でなんとか取り戻したものの、前との差をなかなか埋めることができずそのまま4着でゴール。SB、UBではあったが課題の多いレースとなった。

2組5着 菅田理乃(3) 1:06.61

人生初400mH。足が合わず終始無理やり跳ぶ。10台目を跳び終えてから加速し、1人抜かして5着でゴール。

女子 400mH 予選

DNS 菅田理乃(3)

男子 3000mSC 決勝

1組12着 菅原大地(2) 11:51.47

8月に暑さにやられてしまい練習が十分に積めない中でのレースとなった。序盤から脚がキツく、ゴールするのが精一杯であった。

男子 4×100m リレー決勝

1組4着 42.85

西里(2)-白田(1)-西尾(3)-藤井(M1)

ホームストレートで強烈な向かい風が吹く中スタート。序盤から内側のレーンの大学に追い抜かれ、その差を縮めることなくゴールした。決勝に進むことができず、タイムも良くなかったため、今後に課題が残るレースとなった。

男子 4×400m リレー予選

3組1着 3:16.66

斉藤宥(4)-菅野(2)-千田(D3)-佐藤千(M1)

予選から部記録および日本インカレ標準記録突破を狙いにいった。1走の斉藤がスタートしてから4走の佐藤がゴールするまで、一度も抜かされることなく1着でバトンを繋ぎきったが、終始独走だったため駆け引きなどが一切なく、納得のいくタイムは出せなかった。

男子 4×400m リレー決勝

3位 3:14.23

斉藤宥(4)-菅野(2)-阿部(2)-佐藤千(M1)

予選から3走のみ入れ替え、そのときのベストメンバーで臨んだ。1走の斉藤は予選の反省から200-300m区間の走りを変え、予選よりも約0.5秒はやいラップタイムで2走の菅野にバトンを渡した。菅野は、他大学のエースたちに揉まれながらも、最後までバテることなく過去一の走りをみせた。3走の阿部は、午前中の個人400mHで見事、準優勝に輝き、満を持してメンバー入り。その日は2本目のレースでありながら48秒台で帰ってきた。今年の東北大ロングスプリントのエース、4走の佐藤は、序盤からスピードをあげ、新潟医療福祉の選手をとらえた。結果として、目標を達成することはできなかったが、来年の日本インカレ標準突破にむけた課題が浮き彫りになり、チーム全体に弾みをつける大会であったことはまちがいない。

☆フィールド

男子 走高跳 決勝

DNS 柴田駿吾(1)

DNS 藤田想(3)

女子 走高跳 決勝

10位 原田萌々子(3) 1m45

とても晴れていたが、風の強い試合だった。1m40からスタート。1m40、1m45と共に2回目で成功

させたが、1m50 を跳ぶことができなかった。確実に跳べる高さを 1 回で決められなかったこと、踏切位置や助走の修正など、課題が多く残る試合となった。

男子 棒高跳 決勝

4 位 島村惟葵(2) 4m40

4m40 から始め、流れ気味であったものの一本目で成功。4m60 で、使ったことのない新品ポールに変え踏切までは持っていくことができたものの、空中動作が噛み合わず失敗した。空中までもっていきことができれば大幅な自己ベスト更新が見込まれるので、練習を積んでいきたい。

男子 走幅跳 決勝

27 位 常陸悠成(2) 6m11(+1.2)

1、3 本目がファールで 2 本目は足を合わせにくい跳躍となってしまった。後半シーズンはファールが多く、良い跳躍を記録として残すことができていない。これから走りや跳躍の技術を改善していく共に感覚のズレを修正し、安定して記録を出せるように頑張ろうと思う。

28 位 坂元泰(3) 6m09(+2.3)-F-F

跳び方を変えてから初めての試合だった。全助走でのタイミングのとり方が掴みきれず、1 本目は着地で大きな損をしてしまった。また助走があまり走れていなかったため 2,3 本目で修正を試みたが、風の強さも相まってファールで終わってしまった。ただ、PB を大きく上回る跳躍ができる自信に繋がる試合だった。

DNS 細島慎友(M1)

女子 走幅跳 決勝

DNS 伊藤未空(4)

男子 三段跳 決勝

10 位 大谷航平(4) 14m22(+2.2)

F-F-14m22

七大戦での良い感覚を再現することを目的に挑んだ。

1.2 本目は助走でスピードに乗ろうとした結果、力みが出てしまいファール。ただし、跳躍に関してはそこまで悪くなかったため自信を持って 3 本目に挑んだ。

3 本目はリラックスした走りができたため、踏切もピッタリ合い、スピードに乗った跳躍ができた。しかし、ステップでバランスを崩してしまい、ジャンプが伸びず、14m20 台の記録にとどまった。

全体を通して走りに安定感が無かった。跳躍に関しても細かい修正点が沢山あるため、今後は長期的に課題一つ一つを解決するための練習に励む。

16 位 久保田大聖(3) 13m37(+2.8)

1: 13m37

踏切が遠く感じて助走のリズムが乱れ、スピードを落とした。また、ステップでバランスを崩してジャンプが伸びなかった。

2: F

足が全く合わずホップで跳躍をやめた。

3: 13m14

踏切前にスピードアップを意識したが、思ったほど上手いかず、また、1 本目同様ジャンプでバランスを崩してしまい伸びなかった。

男子 砲丸投 決勝

5 位 大野誠尚(M2) 12m31

全体の投げを通して、グライドのスピードを落としリラックスして投げるように意識した。記録は 12m 付近で安定し、6 投目ではスピードを上げ 12m31cm の SB となった。

男子 円盤投 決勝

8 位 大野誠尚(M2) 35 m24 全体の投げを通して、加速を意識し 2 ターン目でスピードを上げられるように気をつけた。1 投目は 34m32cm。2 投目では、さらにスピードをあげ、35m24cm。3 投目以降は、ファールとなった。

男子 ハンマー投 決勝

14位 富家彬就(3) 36.74m

最終投擲の3ターン目でいい感じに加速できたおかげで思いっきりぶん投げられた。本番の緊張感に負けることが多いので、練習から意識していきたい。

女子 ハンマー投 決勝

8位 平谷めるも(2) 39m54

全体的に加速ができてない投げになってしまった。たくさん反省点が得られたので、しっかり練習して修正し、残りのシーズンに活かしていきたい。

男子 やり投 決勝

7位 増田併介(1) 55m50

助走速度が足りていないのでランメニューを増やす。

13位 川内蒼馬(3) 52m93

一投目 F

足が白線から出てファール。槍も右に抜けてしまい色々と良くなかった。

二投目 52m93

最後の局面での体が進む方向と槍の方向が合っていたが、少し高さを出しすぎたのと、助走で足が動いてなかったので52m止まり。

三投目 51m79

助走スピードを上げることを意識したが、クロスでつまずいてしまい、投げのタイミングが合わず記録が伸びなかった。

17位 秋場湧太(6) 49m16

1投目で49m台を記録したが、終始助走が合わずその後記録を伸ばすことはできなかった。

今季は50m超えの投擲もあり、シーズン通して良いイメージで試技に入れており、そこは良い収穫だった。

男子十種競技

10位 米井潤風(M2) 5421点

本大会は右脚の違和感と厳しい気象条件と戦う2日間だった。その中でも、走幅跳は追参ながらも6m54と非常に良い記録を残し、練習で1m65も跳べなかった走高跳も1m83と調子を戻した(精度には問題が残る)。砲丸投は投げがはまらなかったが9m66とPB更新し、10mも見えてきた。4種目までの得点で2400点とPBペースで6000点も視野に入るペースだったが400mで200m通過後から脚がつってしまい減速。何とか走り切るも59.90という結果となってしまった。これ以降は脚の違和感をかばいながら、モチベーションも落としてしまい、よいパフォーマンスはできず、ハードルは特にケガの不安もあったので流し気味、続く円盤も気合いが抜け2F。かろうじてよかったのは3投目に全力集中し、種目1位となったことである。よくまあ取り戻したなあと笑。棒高、やりも走れないのでうまくいかず、最後の1500mはこれまでのイライラもあってか、一番の集中力を見せ、4:47.60でUBを出した。結果は全く納得いくものでもなく、特別何かをつかめた大会でもなかった。私個人としては、自分は弱いので毎試合PBじゃなきゃ価値がないと考えているので今回の十種は意味がなかったと本気で感じる。でも、無駄じゃないと証明したい。次の27大で6000点を超え、本大会の価値を証明したいと思う。どうせ後2回の十種、バカみたいに真剣に、楽しんでやりたい。

13位 倉部彰土(2) 4801点

5種目で大学ベストを出し、全体でも自己ベストで締めることができたものの、トラック種目が伸び悩み、目標には届かなかった。高いレベルの大会に出場したことで他の選手と比べ、パワーが足りないことを痛感したため、残りの大会に向け身体づくりに専念する。

◎天皇賜盃第9 1回日本学生陸上競技対校選手権大会(9/14~17)

～熊谷スポーツ文化公園陸上競技場～

各地区の予選を勝ち抜いた選手や、ハイレベルな参加標準記録を突破した選手など全国の猛者が集うこの大会に、東北大学からも3名の選手が出場しました。リザルトと観戦記を紹介します。

男子 800m 予選

1組 8着 大塚光陽(3) 1:57.93

スタートして先頭でレースを引っ張る。300m通過から徐々に後ろに抜かれて最後は組最下位でゴールとなった。

女子 400m 予選

4組 4着 菅田理乃(3) 56.76

実力のある選手ばかりの組であったため、4着以内に入ることを考え臨んだ。ピストル音にうまく反応できずスタート。内側の選手の背中を見ながら第3コーナーをなるべく失速しないように意識して走った。4着でゴール。

女子 400m 準決勝

3組 8着 菅田理乃(3) 58.06

100m通過で内側の選手が横に見え上手く加速できていないことを自覚する。その後も体が思うように動かず、1人くらい抜かしたかったができず8着でゴール。

女子 800m 予選

2組 2着 菅田理乃(3) 2:10.47

勢い良くスタートするも他の選手たちの方が速く自然な形で最後尾につく。400mを63秒

で通過し最後尾でありながらもハイペースであることを確認する。550m付近で前を走る選手を抜かず。ラスト100m地点でまだ余裕があったためスパートをかける。2秒ほどPBを更新し2着でゴール。

女子 800m 準決勝

1組 6着 菅田理乃(3) 2:15.28

予選から5時間程おいてのスタートで、普段の大会のラウンド間より長かったため多少回復して臨めた。先頭集団についていくことだけを考えて走った。400m通過まではついていけたもののその後失速。6着でゴール。

男子十種競技

12位 根本大輝(3) 6660点

1日目 100mで11.24, 走高跳で190cm, 400mで51.48を記録し、それぞれ自己ベストだった。1日目を自己ベストペースの3476点で折り返した。

2日目 得意の110mHで思うようなパフォーマンスを発揮できず15.61で777点を獲得。9種目目のやり投では自己ベストの56m31を記録。1500mでも大学ベストとなる4分43秒で661点を獲得し、12位競技を終えた。

◎第36回国公立27大学対校陸上競技大会(9/22~24)～上尾運動公園陸上競技場～

昨年度に引き続き埼玉県上尾運動公園陸上競技場で開催となりました。複数の選手が入賞、PBを更新するなど健闘しました。対校種目に出場した選手のリザルトと選手報告を紹介します。

男子 100m 予選

5組4着 上村尅之(M2) 11.38(-1.3)

スタートと加速含め力まずに進み、50m付近で横並び一直線。その後の中間疾走はスピードを維持し、4着でフィニッシュ。

6組5着 笹山一星(4) 11.28 (-0.6)

間延びした加速になってしまい、トップスピードが上がらないまま上体が起きてしまった。5着でゴール。

7組4着 藤井大陸(M1) 11.19(+0.6)

スタートで先頭に立つが40m付近から失速。他の選手に追い越され4位でフィニッシュ。

女子 100m 予選

DNS 菊地志乃(2)

男子 200m 予選

2組5着 上村尅之(M1) 23.48(-1.5)

スタートからカーブを抜けるまで力みが抜けず、カーブ後は力みによって疲労の残ったような走りをして5着でフィニッシュ。

1組4着 平井嘉人(M1) 23.19(-0.5)

スタートはそこそこ、100m手前でバランス崩したうえに後半は全く体が動かず4着。

9組3着 笹山一星(4) 22.86 (+0.5)

100m付近で先頭に出るが、楽な加速ができず、直線でスピードが落ち3着でゴール。

男子 200m 準決勝

1組8着 笹山一星(4) 27.38 (-1.0)

80m付近で脚を攣ってしまい、ほぼ歩いてゴール。

男子 400m 予選

DNS 西尾陸大(3)

DNS 菅野涼太(2)

女子 400m 予選

2組5着 加賀谷美結(2) 1:03.29

前半からスピードを上げる意識でスタートしたが周りの速さに着いていけず途中からは自分でスピードの管理をしなければならなくなった。後半はラストの直線で上げる意識を持てた。そのままの気持ちで5着でゴール。

DNS 喜多和奏(1)

男子 800m 予選

7組2着 千葉琢巳(5) 1:58.97

最初の1周は集団の最後方につけた。ラスト300から徐々に位置を上げラスト100mで2人を抜いて2着でフィニッシュ。着順で準決勝に進んだ。

男子 800m 準決勝

1組1着 千葉琢巳(5) 1:53.91

ブレイクしてからの位置取りは3番手につける。ラスト200mで2番手に上がり、ラスト100mでスパート。1着かつPBでフィニッシュし、着順で決勝に進んだ。

男子 800m 決勝

2位 千葉琢巳(5) 1:53.76

1周目は集団の最後尾につける。鐘が鳴って2周目に入り位置を上げ、ラスト200mで2番手に浮上。最後の直線で一時先頭に出るもラスト20mでかわされ2着でフィニッシュ。準決勝に引き続いてPBを更新する走りとなった。

女子 800m 予選

2組3着 加賀谷美結(2) 2:22.00

最初のスタートで出遅れないようかなり前半を意識したレースを展開する。400通過はまああのタイムであったが、後半200mで自分で引っ張ってきた疲労が出たのか、ラストスパートがうまくかけられなかった。2着に食らいつきながら3着でゴール。運良く決勝進出。

4組5着 喜多和奏(1) 2:30.44

左足のシンスプリントが再発したという身体の状態だけでなく、その心配や練習不足による自信の喪失といった精神の状態もあり、後ろ向きな気持ちで臨んだレースとなった。前半であまり飛ばすことができず、そのまま後半1周も垂れてしまった。ここ2年ほどメンタルの調整ができぬまま臨むレースがずっと続いていてきつい。来シーズンは一発目からメンタルまでしっかり調整してレースに出たい。

女子 800m 決勝

8位 加賀谷美結(2) 2:23.44

前半からかなり早いレース展開。400通過は自分のレースを振り返ってもかなりの速さで通過していた。前の集団が400でスパートをかけつつあったため、着いて行こうとしたが足も限界、気持ちでもスパートをかけられなかった。直線の応援の声でなんとかスパートして8着でゴール。

女子 1500m 予選

1組11着 中本優花(1) 5:52.03

思うように体が動かず、粘れずに後半失速してしまった。

3組6着 塩見薫(1) 5:16.66

スタート直後から集団がばらけ、2位集団についてレースを進めた。ラスト100m手前でスパートをかけ1人をかわし組6着でゴールした。

男子 110mH 予選

3組6着 大山幹生(1) 17.95(-0.8)

スタートに遅れて、加速出来ずに後半そのまま失速して6着でゴール。

5組2着 西里碧澄(2) 15.66(-0.8)

七大会後の体調不良により、うまく練習が積めずシーズンインより遅いタイムとなってしまった。冬季練習を越えて、もう一段階上のレベルにまでもっていききたい。

DNS 中村祐貴(M1)

男子 400mH 予選

2組2着 阿部竜胆(2) 53.87

アップの段階から絶好調とはいかなかったがなんとかサードベストで走り決勝進出。

5組4着 小出寿啓(4) 55.97

前日にマイル予選があったものの、身体は軽く動きは悪くなかった。しかし、前半で力んでしまったことで、後半が垂れてしまった。8台目通過は練習より大幅に遅れてしまい、最後まで追いつけることが出来なかった。

男子 400mH 決勝

4位 阿部竜胆(2) 53.21

前半押えて後半ギアチェンのレースプランを焦らず実施。前がどんどん近づいているのが分かったが差しきれずまたサードベストを更新し4着。3着とは1000分の1秒差だったためかなり悔しかった。

男子 4×100m リレー予選

4組3着 43.01

西里(2)-白田(1)-笹山(4)-藤井(M1)

バトンパスがうまくいかなかった前回の反省を踏まえ、バトン練習を重点的に行い大会に臨んだが、タイムは今ひとつ。全体的に一回り他大と走力が足りていないと感じた。来シーズンの東カレに向け、ssの練習内容について根本的な改善が必要だと感じた。

女子 4×100m リレー予選

DNS

男子 4×400m リレー予選

1組1着 3:18.86

斉藤(4)-小出(4)-平井(M1)-阿部(2)

大きなミスなく3走まで大きなリードをもらって1着で予選通過。

女子 4×400m リレー予選

DNS

男子 4×400m リレー決勝

6位 3:18.15

斉藤(4)-千葉(5)-阿部(2)-小出(4)

メンバーを入れ替えて優勝を目指して走ったが、それぞれ思うような走りが出来ず6着で終わった。他大学との差を見せつけられてしまったが、冬を越えて来年はしっかり戦えるように準備したい。

☆フィールド

男子 走高跳 決勝

DNS 柴田駿吾(1)

DNS 根本大輝(4)

女子 走高跳 決勝

3位 原田萌々子(3) 1m50

十分に調整できていないまま試合に出場してしまっただが、疲労がなかったことで動きは悪くなかった。最近の課題であった踏切位置を下げるということがいつもよりは上手くいったため今シーズンのセカンドベストである1m50まで跳べたのだと思う。来シーズンはもっと良い記録を出せよう、大会の反省を生かして冬季練習に取り組みたい。

男子 棒高跳 決勝

NM 島村惟葵(2)

コンディションは悪くなく、助走の感覚も悪くないものであったが、競技時間に制限があり、十分な練習を行うことができないまま本番試技を迎えることになってしまい、普段柔らかいポールであったものの幅を出すことができなかった。様々な状況を想定した練習を行っていきたい。

DNS 吉田悠人(3)

男子 走幅跳 決勝

29位 細島慎友(M1) 6m06 (-3.2)

4m92(-0.3) - 5m85(-1.8) - 6m06(-3.2)

怪我が治りきっておらず、不完全な状態での出場だった。スピードをセーブしながらの助走だったので、スピードをコントロールするのが難しく1本目から全く足が合わなかった。2,3本目の跳躍も足が合わず、怪我で攻めることもできなかった。これまでの試合結果と比べると非常に悔しい結果ではあったが、この結果を受け止めて次につなげていきたいと思う。

DNS 大場康平(2)

DNS 坂元泰(3)

女子 走幅跳 決勝

10位 伊藤未空(4) 5m16 (+1.9)

1本目 F

助走の出だしから助走が跳ねてしまい、上手く加速できないまま踏み切った。3cm程度ファールした。

2本目 5m16cm (+1.9)

1本目の助走の浮き具合を少し修正することが出来た。踏切前でも減速することなく、板に5cm程乗って空中姿勢へと繋がった。

3本目 5m10cm (+1.7)

ベスト8ラインぎりぎりに位置していたため、少しでも記録を伸ばそうと力んでしまった。そ

の結果、踏切で潰れてしまい低空飛行になってしまった。

以前と比較して、試合中一貫して助走が跳ね気味だった。その結果、中間疾走から踏切前にかけての加速が上手くいかず、平凡な記録で終わってしまった。次戦は浮かない助走を意識しながら臨みたい。

男子 三段跳 決勝

23位 久保田大聖(3) 12m95(+1.7)

1: 12m95

無難にまとめたが、調子が悪く助走でスピードを上げきれず、跳躍のどの局面も伸びなかった。

2: 11m58

ステップで1本目より足を前に出して距離を稼ごうとしたが潰れてしまった。

3: F

助走スピードを上げようとしたところピッチが速くなって踏切が合わなかった。

女子 三段跳 決勝

13位 伊藤未空(4) 10m26(-1.8)

1本目 10m26cm (-1.8)

試合で初めての全助走跳躍。ホップ・ステップで失速してしまった。

2本目 10m11cm (+2.6)

1本目の反省を生かし、上体を起こすことを意識したが、ホップで跳ねすぎてしまった。

3本目 10m06cm (-1.2)

前方方向への跳躍を意識したが、ステップで耐えきれず失速してしまった。

試合で全助走を初めて解禁したため、スピードに耐え切ることができなかった。次戦は、ややスピードを落として余裕を持った踏切を意識したい。

男子 砲丸投 決勝

4位 大野誠尚(M2) 11 m78

練習投擲で足を攣ってしまった。1投もパワーポジションに入れなかった。

男子 砲丸投 決勝

DNS 川内蒼馬(3)

男子十種競技

12位 倉部彰士(2) 4872点

注力していたスプリント種目で想定よりも大きく失点してしまい、目標に届かなかった。冬季練習では筋力強化と共に長期的なスパンでの技術練習に取り組み、どのような場面でも力を発揮できるようにする。

◎秩父宮賜盃第 5 4 回全日本大学駅伝対校選手権記念大会東北地区代表選考会兼第 4 0 回

全日本大学女子駅伝対校選手権大会東北地区代表選考会 (9/26) ～北上総合運動公園～

昨年に引き続き、北上での開催となりました。男子は、16km、10km のロードレースで合計タイムを競い、惜しくも 2 位という結果でした。昨年度に引き続き今年も長距離パート以外の部員も現地で応援をしました。男子のリザルトと対校戦に出場した男子選手の観戦記、長距離 P C からの予選会の総括を紹介します。

○リザルト

・男子総合結果

順位	大学	記録
1 位	東北学院大学	5 時間 40 分 16 秒
2 位	東北大学	5 時間 41 分 34 秒
3 位	山形大学	5 時間 45 分 02 秒
4 位	秋田県立大学	6 時間 33 分 49 秒

	氏名(学年)	記録
16km の部	薮下温司(M2)	53:07
	工藤大介(M1)	53:36
	深澤昇悟(3)	52:20
	向田祐翔(3)	52:34
10km の部	千葉航太(2)	32:15
	杉山大輔(2)	32:20
	坂本順(4)	32:40
	竹内慶真(1)	32:42

◎全日本大学駅伝予選会選手報告

16km の部

薮下温司(M2) 53:07 (全体 11 位)

中盤までは東北大の中で集団走の予定だったが、先頭集団のペースが 2km 過ぎに大きく落ち先頭集団に付くことになった。しかしその先頭集団が 4km 手前でペースアップしたのに対応できず、集団から離れて単独走を強いられた。8km 付近で山形大学の集団に追いつかれたため後ろにつき、その集団の中でゴールした。1 年間目標にしていた全日本大学駅伝に出場することができず非常に残念。怪我や体調不良などアクシデントが多く、万全の状態ですべてに挑めなかったことが悔やまれる。今まではレースで失敗したとしてもこの経験を次に活かして頑張ろうと思えたが、M2 の私にはもうリベンジの機会はないため、このレースの悔しさは後輩たちに託そうと思う。来年、強くなった後輩たちが今年の雪辱を晴らしてくれると信じている。

工藤大介(M1) 53:36 (全体 13 位)

1 周目は体もよく動いて、ペースにも余裕があったので調子がいいなという感触であった。8 km までは向田、深澤と一緒に第二集団で走っていたが、8 km 地点での給水をうまくとることができず前との距離が少し空いてしまったところで一気にきつくなった。そこからはペースが一気に落ちてしまい、4 周目にはいるところで薮下さんが追い付いてきて後ろについたが、1.5km ほどで離されてしまった。そのままペースを上げることができずにゴール。今年の予選会では、個人としてもチームとしても良い結果を残すことができなかった。来年の全日本出場に向けてあと一年頑張りますので、応援お願いします。

深澤昇悟(3) 52:20 (全体 8 位)

スタート 4km 地点までは集団で 3'15-20 のペースで走っていたが、その後東北学院大学の選手 3 人が集団から抜け、東北大学はペースを保ちつつ差を開かれないようにレースを運んだ。10km 地点からペースを上げた東北学院大学 4

人目の選手について行ったが、ラスト 2km の向かい風の区間で離されてしまい、最後は 10 秒弱の差を詰められずにゴールした。優勝した東北学院大学の選手には 90 秒差をつけられ、16km 全体では 5 分強の差となり、チームとしての地力の差が出てしまった。

向田祐翔(3) 52:34 (全体 9 位)

16km の部に出場しました 3 年の向田祐翔です。個人の成績は 52 分 34 秒でのゴールとなりました。序盤は集団でのレースとなりましたが、夏場の怪我やコロナウイルス感染による練習不足がたたりに、上位勢から振り落とされる形となりました。今シーズンは継続的な練習が出来ず、予選会でも 10km メンバーの足を引っ張る形となりましたが、気持ちを切り替えて来年度の予選会に向けて練習に励みたいと思います。

10km の部

千葉航太(2) 32:15 (全体 1 位)

16km が終わった時点で、1 位の東北学院大学との差は 5 分 19 秒だったので最初の 6km を 4 人で集団走し、ラスト 4km でペースをあげ、差を付けるレースプランだった。実際、レースプラン通りレースが進み、ラスト 4km で自分からしかけた。その後はほぼ単独走となりラスト 2km でペースが落ちかけたがたくさんの応援のおかげもあり最後はペースを再度上げてゴール。結果 10km で約 4 分巻き返したものの、あと 1 分 18 秒たりず東北学院大学に敗れ、全日本大学駅伝の出場を逃してしまった。今回の作戦やレースプランにほぼミスはなく、単純に力負けだった。来年全日本大学駅伝に出場できるように 1 からまた頑張りたい。応援ありがとうございました。

杉山大輔(2) 32:20 (全体 2 位)

6km までは東北大 4 人でまとまって 3'15/km 付近のペースでいき、余裕がある人はそこから

上げるというプランでレースに臨んだ。レースでは予定通り 6km まで 3'15/km 付近でいき、そこから千葉がペースを上げたためそれに少し遅れる形で自分もついて行った。ただ 7km を過ぎたあたりからかなりきつくなり何とか最後まで粘ったが、スパートをかける余裕すら無く 2 位でゴール。

坂本順(4) 32:40 (全体 5 位)

6 キロまでは 3'15 /km で集団走、そこから free というプランで臨んだ。結果的に 16 キロとの合計タイムで負けてしまったものの、レースプラン、作戦自体は間違っていなかったと思う。ただ個人としては、6 キロ手前で差し込みがきてしまい、free になってからはペースを維持するのがやっとだった。呼吸が深くできず途中何度もやめたくなったが、追いつかれた選手に食らいつきながら何とかゴールできた。

個人としてもチームとしても、満足のいく結果には至らなかった。大きなアクシデントや戦略的なミスによるものではなく、単純な力負けだったと思う。

竹内慶真(1) 32:42 (全体 6 位)

当日は、16km で東北学院大学さんとの差をなるべく抑え、10km は最初から 3'15/km で押していき逆転するというプランだった。レースでは、1 週目は東北大の選手 4 人で交互に先頭を引き設定通りのペースでレースを進めることができた。しかし、暑さの影響もあり 6km からペースアップした際についていくことが出来ず、6km 以降は単独走になってしまった。8km 以降は、後ろから来た東北学院大学の選手に着いていったが、ラストスパート勝負で負けてしまった。結果として逆転することができず、総合 2 位で本戦出場を逃してしまった。この悔しさを忘れずに練習に励みたいと思う。

全日本大学駅伝東北地区予選会総括

長距離パートキャプテン 3 年向田祐翔

OB・OG の皆様、日頃よりご支援、ご声援ありがとうございます。先日 9 月 24 日に行われ

ました全日本大学駅伝東北地区予選会の総括を行います。結果としては5時間41分34秒、総合2位という結果に終わり、1位と1分18秒差で惜しくも全日本大学駅伝への出場権を逃すこととなりました。OB・OGの皆様のご期待に添えられず申し訳ありません。予選会優勝の目標は達成できませんでしたが、予選会メンバー、メンバー外問わず1,2年生の台頭によりチ

ームの底上げが成されつつあり、来年度の予選会に向けて再始動しております。このような悔しい思いを経験としてプラスに捉え、来年度の予選会優勝し再び全日本の地で出走できるよう邁進して参りますので、ご支援、ご声援の程よろしく願いいたします。

◎自己ベスト更新者一覧(8/10~9/24)

男子 800m

千葉琢巳(5) 1:53.76 27 大戦 (9/24)

女子 800m

菅田理乃(3) 2:10.47 全日本 IC(9/16)

女子 1500m

菅田理乃(3) 4:48.10 北日本 IC(8/10)

塩見薫(1) 5:16.66 27 大戦 (9/23)

男子 400mH

阿部竜胆(2) 52.42 北日本 IC(8/11)

二ノ神遼(6) 53.46 北日本 IC(8/11)

男子円盤投

大野誠尚(M2) 35 m24 北日本 IC(8/10)

男子ハンマー投

富家彬就(3) 36m74 北日本 IC(8/10)

男子十種競技

倉部彰士(2) 4801 点 北日本 IC(8/10)

根本大輝(4) 6660 点 全日本 IC(9/16)

◎今後の予定

- ・ 10月21日(土) OB・OG 対現役部員対抗陸上競技大会 (東北大学評定河原グラウンド)
- ・ 10月29日(日) 第41回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 (仙台市)
- ・ 11月11日(土) リレーマラソン(秋保マラソン代替行事) (東北大学評定河原グラウンド)

◎編集後記

北日本インカレはじめ、前日本インカレ、27大戦とトラックはシーズン終盤戦ながらも部記録更新や自己ベストを更新する選手も多く一人ひとりの活躍が光りました。また、ここからは駅伝のシーズンとなります。今回の予選会では惜しい結果となってしまいましたが、長距離パートはじめ一人ひとりの部員が自身と部活動全体のために日々練習に励んでいます。OB、OGの皆様、引き続きたくさんのご声援をよろしくお願いいたします。

文責 OBOG 通信担当 大村将伸
編集補助 竹田康人、須藤桃由

東北大学陸上競技部三秀会
〒980-0815 仙台市青葉区花壇 2-1
東北大学評定河原グラウンド内
hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp